教職員の皆様へ

教育センターだより【９号】

令和７年１２月１８日　発行

５１８－０４８５
三重県名張市百合が丘西５番町２５番地

事務室・教育よろず相談１F
Tel 0595-64-8801　Fax 0595-64-8802
E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.lg.jp
minakuru01@nabari-mie.ed.jp

教育支援教室(さくら教室)２F
Tel 0595-63-7830　Fax 0595-64-8802
E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

学校ボランティア室　１F
Tel 0595-64-8864　Fax 0595-64-8802

ホームページ　http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/
教育センターホームページ QR コード

令和７年度プロジェクト研究
「協働的な学びを実現する対話のある授業づくり」

【研究授業を終えて】

本年度のプロジェクト研究は、「協働的な学びを実現する対話のある授業づくり」をテーマに進めてきました。６名の研究員には、「魅力ある発問設定」（好奇心・探究心を掻き立てる／つけたい力に沿った問い）、「授業方法」（学びを深めるペア学習やグループワーク等）、「対話の対象」（対話活動を行う場面と対象）の３点を柱として研究授業を実施していただきました。

指導案作成から本番に至るまで、大変多くの学びがあり、非常に質の高い研究授業となりました。

１　美旗小学校　第４学年国語科「ごんぎつね」　上山　真衣　教諭

『エキスパート活動で、兵十の気持ちの変化を深めていく』

発問：不可欠な主発問と意図的な場設計により、目標に一貫し教育効果の高い授業展開が実現しました。

方法：エキスパート活動を採用し、意見をその場で視覚化・構造化する高度な授業技術を導入。児童の思考の視野を広げる上で有効に機能しました。

対話：導入（教師と児童）、展開（児童同士）、まとめ（グループ対全体）と、活動目的に合わせて対話の対象を意図的に切り替えることで、児童主体の学習内容構築と、意見共有による新たな気づきが促され、学習効果を最大化することができました。

２　桔梗が丘小学校　第４学年算数科「分数」　青山　和輝　教諭

『帯分数を仮分数になおす方法を自分たちの力で習得できる』

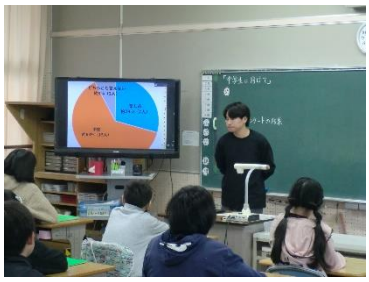
発問：導入のクイズと、即答が難しい主発問が、深い個人思考と多様な解法を引き出しました。

方法：個人思考（熟考）、自然なペア学習（気づき）、グループ学習（意見交流）を適切に組み合わせ、集中と対話のメリハリを生み出しました。

対話：教師の説明を極力減らし、児童間の対話による「あ、そういうことか」という知識の変容（気づき）を最大化しました。教師はパイプ役として対話を繋ぎ、学びを学級全体に広げることに成功しました。

３　すずらん台小学校　第６学年学活「中学生に向けて」　安川　周良　教諭

『過去の自分、中学生との対話を通して自分たちの未来を考えていく』



発問：児童や中学生の「生の声」（アンケート結果）を可視化して提示したことで、児童の新しい気づきと積極的な反応を引き出しました。

方法：個人思考の時間を柔軟に確保した後、即時アンケート結果に基づき、同意見同士が集まるエキスパート活動型グループを構成し、過程や方法を深く吟味し合う対話が実現しました。

対話：教師が設定した活動の枠組みの中で、児童同士の対話を軸に展開し、不安の減少と将来を見据えた学習姿勢の定着を促しました。

4　名張中学校　第１学年数学科「比例の利用」　西村　俊紀　教諭

『魅力的な題材をもとに、変数を用いて見えないものを求める』

発問：授業者の身近な事象を題材に、「答えを探す」から「答えを創る」活動への転換を重視し、生徒の強い意欲を喚起することができました。

方法：個人思考では「粘り強さ」や知識の変容が見られ、グループ対話では、貢献・協働といった「向上心」が多様な形で達成されました。

対話：教師からの的確な情報提供という学習の基盤となる階層と、生徒相互が思考や知識を共有するという能動的な発展の階層が効果的に機能しました。その相乗効果により、生徒が主体的かつ協力的に課題解決に取り組む姿勢を実現することができました。

5　桔梗が丘中学校　第３学年理科「運動とエネルギー」　髙山　博貴　教諭

『地下鉄が地下を通る理由をエネルギーの視点で説明』

発問：身近な題材から単純な事柄を深く探究させ、生徒の関心・意欲を喚起できました。

方法：明確なめあてと予測実験・思考・対話の連動が、探究力の育成に極めて有効でした。

対話：生徒同士の協働学習では、予測や結果の解釈で知的好奇心から、深い考察が実現しました。教師からの必要最低限な声掛けは、生徒の思考を「エネルギーの視点」に的確に誘導する役割を果たすことができました。

6　北中学校　第２学年保健体育科「跳び箱運動」　山崎　桜　教諭

『なかまと協力して、前回の自分を超える』

発問：「前回の自分を越える」という多角的な目標を設定しました。授業者からの事前の働きかけにより、生徒は個々の目標を明確に設定できました。

方法：多様な習熟度グループ構成により、得意な生徒の言語化が消極的な生徒の意欲を高め、粘り強い挑戦に繋がりました。

対話：導入・まとめでは教師と生徒の対話で要点を明確化しました。
実践・グループ活動では生徒同士の対話を中心とし、互いに協力して授業を創り上げるという学級目標を達成し、見学者が減少する良好な雰囲気がつくられました。

＜成果と課題＞

発問の工夫：めあてで好奇心・探究心を刺激し、主発問では単に答えを出すことではなく、「説明できる」ことや「考えることができる」といったプロセスに視点を置きました。これにより、児童生徒は答えに辿り着くだけで終わらず、多様な解決方法の発見、新たな気づき、他者の意見の尊重、そして他意見による自身の見解の変容（向上的変容）を経験できました。

対話の対象：なかまとの対話、教師との対話だけでなく、自分との対話（過去の自分、未来の自分）、また教材との対話（作者との対話）等、様々な対象における協働的な学習の可能性に気付くことができました。

授業構築の視点：授業を子ども主体とするには、単に「任せる」のではなく、指導者が意図をもって、育成したい力と、そのために何に視点を置いて考え、活動させるかを明確に伝えることが重要です。
対話活動は通過点であり、最終的にはその学びを個人に返し、個の考えを深め、授業の中で変容させることが必要であると結論づけています。

★本研究での指導案、資料などを「職員用全体フォルダ」「001 教育センター」「⑤プロジェクト研究」「R7 プロジェクト研究」に保存してありますので、ご活用ください。

3学期の研修講座のお知らせ

講座名	講師名	日時	場所
自主研修講座 「通級指導教室」	三村まゆみ 特別支援教育アドバイザー	２月５日(木) １６：３０~１７：３０	つつじが丘 小学校
自主研修講座 「若手教員のつどい」	山本　卓生 教育センター長	２月１２日(木) １６：３０~１７：３０	教育センター 大研修室
ばりっ子チャレンジ教室 「ばりっ子チャレンジ教室体験で学ぶ」	教育センター職員 他	１月１０日（土） １月１７日（土）	教育センター 多目的スペース

日々の実践や悩み等を出し合いながら、授業づくり、授業改善に活かせるヒントをたくさん得ることができます。ぜひご参加ください！